



記録を残すのが嫌いな人を 記憶するドキュメンタリー映画

カンニング・ジョン
康宇政

「元々、撮られることは好きじゃないんです。」そんな言葉を口にする柳家小三治師匠。囃家の仕事で第一で、テレビ取材等も避けてきたストイックな人が上野・鈴木での「歌ま・く・ら」の公演ならと撮影が始まりました。それを契機に師匠独特の高座は勿論のこと、寄席の楽屋裏から、地方興業への旅、プライベートな場面など、師匠によりそいながら囃家・小三治を見つめ続けました。

普段、落語を見るお客さんにとって、囃家は、完成されたものとしてしか写りません。しかし、こころの底から素直に惹きつけられる「囃」。それを紡ぎだすに至る裏側には何があるのか？ この作品では、高座の表舞台と裏舞台で落語を通じて、弟子を育てること、己を磨くこと、そして落語と格闘している囃家のひたむきな姿をドキュメンタリー映画として描き出しました。

当代随一の囃家の至芸が観られるのは勿論だが、カメラは高座以外の日常をスケッチしながら、その才人の至芸と日常の関係を探っていく。成る程、あれ程の至芸はそんな「よそ者」の囃家とはこんなにも違う日常の中に潜む高踏な人生観と素朴な創造精神によって生まれるのかと妙に納得させられる。でも実は至芸と日常の本当の関係は誰にも分からない。そのことも又、カメラは正直に映し出している。何はともあれ、高座の小三治のクローズアップが最高に美しい。至芸とその美、見逃す手はない！

映画監督 柳町光男

この映像——小三治師匠の芸魂に、すこぶる共感すると、もう、また、切々と胸に迫って教えられると、く、多々ありました。それにつけても、「芸が身を助く」る程の……幸せ？ 不幸せ？

俳優 小沢昭一

哲学する囃家。その素顔の一端を見た。一部収録されている「黙阿彌」が凄いい。

コラムニスト 天野祐吉

笑いとは心の肯定的な作用といわれるが、真の笑いは否定と疑問から生まれる。思索する囃家・柳家小三治の日々と、生き方と、ふとした咳きを通ったこの映像はその真理を痛切に映し出して落語の目からウロコを落とした。

ソニーミュージックプロデューサー 京須備充

ベースに支えられた独特のおかしみが、どこから来るのか。芸の中に人がいます。小三治さんという人が隅々にまで、息づいています。そのまっすぐなまなざしで、私たちが見つめられていると感ずる映画です。

作家 下重暁子

「カタチなんかは関係ない、囃なんだから“こころ”なんだよ」



「僕は小さいときから歌の好きな少年だった」



「遊びは、真面目にやらなきゃ遊びにならない」



「自分が素晴らしいと思う師匠達は、落語と格闘していますよね…」



「教えることは何も無い、ただ見ているだけでいい」



自分が楽しまなくちや、人は楽しめないよ

ドキュメンタリー映画

小三治

出演：柳家小三治 入船平福橋 柳家三三 立川志の輔 桂米朝

語り：梅沢昌代

監督：康宇政

プロデューサー：安西志麻 米山靖

撮影：杉浦誠

録音：米山靖

構成協力：伊勢真一

スタイル：青木信二

協力：平田慶文 鈴木演賢場 社団法人落語協会 バドック

文化庁

制作：オフィス・シマ ヒボ コミュニケーションズ

2009年 / 35mm / ビデオ / 104分

問合せ ドキュメンタリー映画「小三治」上映委員会

〒160-0002 新宿区坂町21 リカビル201

TEL.03-3355-8702 FAX.03-3355-8622

www.cinema-kosanji.com

2009年 5月15日(金) 午後2時00分 / 午後7時00分

長野松竹相生座

長野市権堂町2255(権堂アーケード通り中央)
Tel.026-232-3016 ※各回とも入場は30分前から

前売 1,000円 販売中 前売所：長野松竹相生座 / ながの東急 / 平安堂長野店 / アペレコード

当日 一般 1,300円 シニア・学生 1,000円



●長野電鉄「権堂駅」から徒歩約3分
●「長野駅」から徒歩約15分
※駐車場はございませんので、付近の有料駐車場をご利用ください。

主催・お問合せ：オフィス麟(オフィス・マユ) Tel.026-226-1001 / http://office-mayu.net ※当日代引の電話予約・ネット予約受付中